神が実を結ばせて下さる　　ヨハネ 15:16

1.キリストの選びとは

今朝の箇所、ヨハネ 15:16 の「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです」という言葉は、前の 15 節の「わたしはあなたがたを友と呼びました。」ということばから友としての選びを意味していると考えられます。ふつう、わたしたちが友だちを作るときは、人と出会って、「この人なら気が合いそうだ」と思ったら、自分のほうからその人を友だちに選びます。しかし、ここで主イエスは「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである」と言って、主イエスとわたしたちとのつながりは主イエスからの働きかけがあったからだと言っておられます。わたしたちは皆、毎日毎日、一瞬一瞬、物事を選びながら生きています。今朝、わたしたちがここにいるのも、この時間に他のことをすることを選ばないで礼拝することを選んだからです。しかし、わたしたちはいつでも良いものを選ぶとはかぎりません。つまらないものを選んでしまうこともあります。聖書には、「私は、きょう、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。」申命記 30:19 とあって、わたしたちに良いものを選ぶよう促しています。信仰とは、神が示してくださる「いのち」の道、「祝福」の道を選びとっていくことです。詩篇には「私は真実の道を選び取り、あなたのさばきを私の前に置きました。」詩篇 119:30 という言葉があります。また、ベタニヤのマリヤがイエスの膝元に座り、その話に聞き入っているのを、姉のマルタが咎めたとき、イエスは、「しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」ルカ 10:42 と言われました。主イエスはわたしたちに常に「必要なもの」を、「良いもの」を選ぶように教えてくださっています。

ですから、わたしたちも、イエスを友として選んだのです。そして、イエスを友として選んだ選択は、間違いのない、最良の選択でした。しかし、それでも、イエスは、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのです」と言われます。これは、わたしたちの選択を否定するものではありません。確かに私たちは自分の判断で良いものを選んだのです。それでもイエスはわたしたちがイエスを選ぶ以前に、イエスのほうからわたしたちを選んでいたのだと言われます。つまりイエスがまず、わたしたちを選んでくださっていたので、わたしたちもイエスを選ぶことができたということです。こうも言えます。イエスを選ぶこと自体、イエスが私を選んでくださったからこそ出来ることなのだと。聖書はこのことを、次のような言葉で表現しています。　「神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。神は、みむねとみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。」エペソ 1:3-5 「神は…世界の基の置かれる前から…わたしたちを選び」という言葉は、驚くべき言葉です。人間は天地創造の最後の六日目に造られましたが、神のお心の中では、天地創造の前から覚えられていたのです。神は人間のためにこの世界を設計して造ってくださったのです。このことは限られた人間の力では理解し尽くすことはできませんが、神がこの世界のどんなものよりも先んじて、わたしたちの人生に最善を計画しておられたという、その愛は感じ取ることができます。このような神の愛と選びを考えるとき、わたしたちは自分の人生をけっして無駄にしてはいけないと思います。あの人ではなくどうして私が信仰を持つにいたったのか？　それこそ神の選びがあればこそであり、さらに言うなら、あ

の人に伝えるためにあなたが先に選ばれたのです。

「キリストがわたしを選んでくださった。」この事実は、わたしたちを思い煩いや不安、恐れから救ってくれます。真面目な人ほど、「信仰を持つからには、それを生涯貫き通したい。中途半端なことはしたくない。けれども、自分にはそれができるだろうか」と心配になるものです。主は、そうした気持ちをよくご存知です。心配するなと仰るだけでなく、心配しなくてよいように支えてくださるのです。「わたしがあなたを選んだ。だから、わたしが責任を持つ」と言ってくださるのです。

イエスは言われました。「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。」ヨハネ 10:28-29 信仰とは、神に向って手を差し伸ばすこと、キリストの手を握りしめることです。しかし、わたしたちが自分の力だけでそうしているなら、いつか、疲れてその手を離してしまうかもしれません。しかし、キリストが、わたしたちの手を握りしめてくださるなら、わたしたちはキリストからけっして離れることはありません。キリストは「彼らをわたしの手から奪い去る者はない」と言われたばかりか、「だれも父のみ手から、それを奪い取ることはできない」とも仰って、わたしたちがキリストの手と父なる神の手で二重に守られていることを教えてくださっています。

2.使命のために選ばれた

キリストに選ばれていること、それは私たちに安心と安全を与えてくれます。そして、それと共に使命を与えてくれます。人は、安心と安全さえあれば、満足できるものではありません。それとともに「使命」が必要です。選びと使命は、いつでも結びついています。スポーツで競技に出る人を「選手」と呼びます。「選手」とは「選ばれた人たち」です。何のためにでしょう。競技に出て自分に与えられた分を果たすためです。キリストが、わたしたちを選んでくださったのも同じです。わたしたちはキリストに選ばれたとき、キリストから使命を与えられたのです。使命を果たすため、その人に与えられた役割を果たすために選ばれたのです。

わたしたちは皆、自分の人生に意味と目的を必要としています。その生涯の間に、何か意義のあることを成し遂げたいと願っています。誰かの役に立つことを求めています。どんなにすべてのものに満たされていても、自分のためだけに生きる人生には、消えていく「楽しみ」はあっても、消えることのない「喜び」はありません。逆に、たとえ、苦労は多くても、意味あることのために働くことができたら、人は満ち足りた心で生きることができます。キリストに選ばれた者には、それ以前に、キリストから与えられた使命があります。その使命を知り、それを実行していくとき、この世が与える「生きがい」以上のもの、神に仕える喜びと満足を得ることができるようになります。

その使命とは何でしょうか。主イエスは言われました。「それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためである。」ここで、キリストとわたしたちとの関係が友と友との関係から、ぶどうの木とその枝という関係に戻っています。ぶどうの枝が実を結ぶためにあるように、キリストに選ばれた者たちに与えられている使命もまた、実を結ぶことにあります。

3.神が結ばせて下さる実

では、わたしたちが結ぶべき実とはどんなものでしょうか。聖書にはすくなくとも三つの実がありま

す。第一は「聖霊の実」です。ガラテヤ 5:22-23 に「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」という九つの実がしるされています。これは、聖霊がわたしたちの人格の中に生み出してくださるものです。第二は「行いの実」です。主イエスが「良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。」マタイ 7:17 と言われたように、わたしたちの内面が良いものへと変えられていくとき、わたしたちの行いも良いものに変えられていくのです。第三は「福音の実」です。コロサイ 1:6 に「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。」とあります。「福音」、つまり、キリストの救いについての良い知らせがわたしたちを通して、人々に伝えられていくとき、そこに救われる人々が起こされ、キリストのぶどう畑である教会が生まれ、そのぶどう畑にさらに聖霊の実、行いの実、そして福音の実が結ばれていくのです。

枝は実を生らせますが、その実をいつまでもつけてはいません。実が熟すと、それを地面に落とします。地面に落ちた実は動物がそれを持ち運んで食べます。実の中には種があり、種の中には命があって、そこから芽が出、やがて木となり、もとの木から次々に新しい木が生まれ、多くの実がみのるようになるのです。そのように、私たちが実を結ぶのも自分のためではありません。他に与えるためです。それによって人々がキリストの恵みにあずかるためです。人々がわたしたちの差し出す実によって命を得、養われるためです。

主イエスは「その実はいつまでも残る」と言われました。わたしたちが地上で築いたものは、それが財産であれ、地位であれ、名誉であれ、事業であれ、世とともに過ぎ去っていきます。しかし、キリストにつながるぶどうの枝として結んだ実は、みな天につながっていきます。それらはいつまでも残る実です。主イエスは「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。」ヨハネ 6:27 と言われました。わたしたちも、地上のことがらや自分のためだけにあくせくするのでなく、天のことのために働き、神のために奉仕する者となりたいと思います。

実を結ぶ秘訣はキリストに「とどまる」ことにあります。ヨハネ 15 章でイエスはそのことを何度も語られました。「あなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」4 節「人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。」5 節　その「とどまる」と訳されたのと同じ言葉が、「あなたがたの実が残る」16 節で使われています。キリストに「とどまる」なら、いつまでも「残る」実を結ぶことができるというわけです。

わたしたちの人生が地上だけのもので終わらないで、永遠までも意味あるものとなる。それは、一にも、二にも、キリストに結ばれていること、キリストの言葉に、その愛にとどまることによってです。わたしたちを愛し、選んでくださったキリストは、決してわたしたちを離すことはありません。今度はわたしたちがキリストへの愛に応え、日々の生活の中でキリストを選び、そしてキリストにとどまる番です。そのようにして、神にも人々にも喜ばれる実を豊かに結び、それを人々に分け与えていきたいと思います。